

市民アンケート調査の結果

(1) 市民アンケート調査の概要

- 自転車の利用環境の向上や自転車活用の方向性を検討するため、計画策定時の令和元年 10 月及び中間見直し時の令和 7 年 6 月に、本市に居住する 1,500 世帯を対象に市民アンケートを実施しました。
- 本調査に基づき、市民の自転車活用の実態や、今後の自転車活用に対する意識などの変化を中心に把握しました。

		前回（計画策定）	今回（中間見直し）
調査対象		豊橋市内の世帯	豊橋市内の世帯
調査方法		郵送配布 郵送回収	郵送配布 郵送回収+WEB 回答
実施日		令和元年 10 月 1～18 日	令和 7 年 6 月 12～25 日
設問数	世帯票	19 問（分岐設問除く）	19 問（分岐設問除く）
	個人票	22 問（分岐設問除く）	17 問（分岐設問除く）
配布数	世帯票	1,500 通（無作為抽出）	1,500 通（無作為抽出）
	個人票	4,500 通（1 世帯 3 通）	4,500 通（1 世帯 3 通）
回収数 （回収率）	世帯票	358 サンプル（回収率 24%）	350 サンプル※（回収率 23%）
	個人票	620 サンプル	547 サンプル※

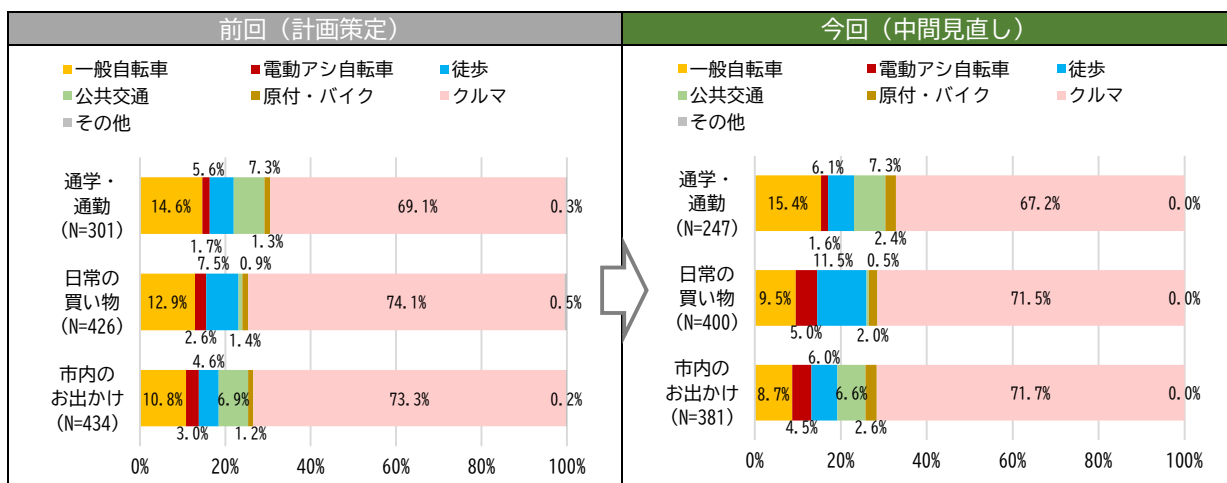
※うち WEB 回答【世帯票】93 サンプル、【個人票】109 サンプル

(2) 市民意識からの課題

① 移動は「自家用車」に依存している状況

- 令和元年の前回調査時点で、移動手段として自転車ではなく自家用車を選択する傾向が強い状況にあり、前回と今回を比較して、自動車の利用は若干減少しているものの、自転車（電動アシスト付き自転車含む）の利用率はほぼ変わらず、徒歩や原付・バイクの利用が増えています。
- なお、今回調査では、日常の買い物、市内のお出かけについて、電動アシスト付き自転車の割合が増えており、一方で一般の自転車の割合が少なくなっています。

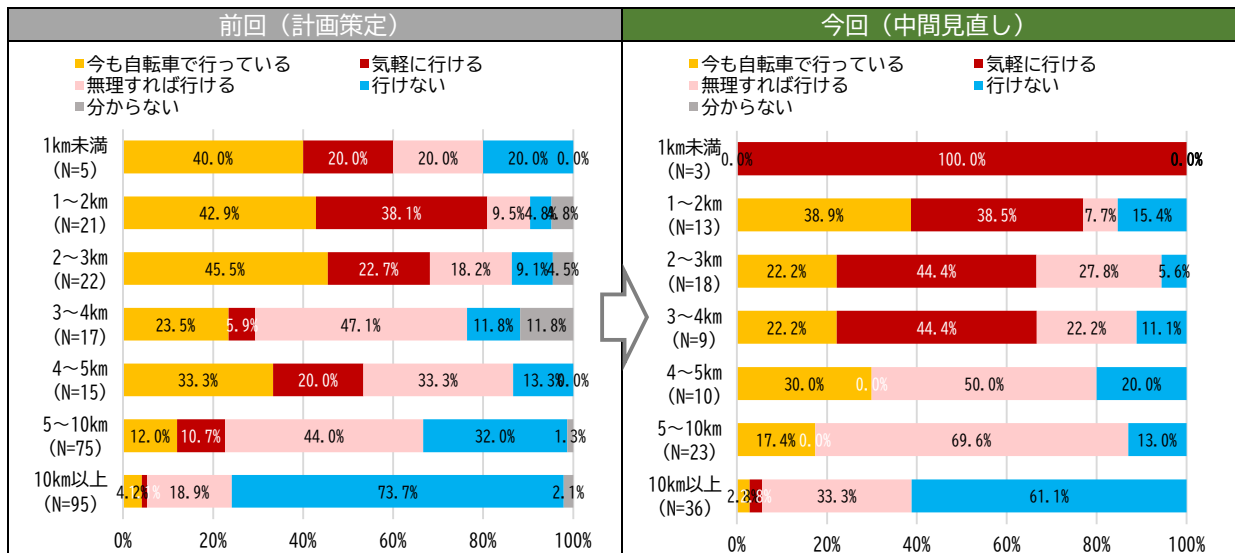
■ 交通目的別の移動手段



② 4 km までなら自家用車から自転車の転換も可能

- 通学・通勤目的で移動している回答者のうち、徒歩での通学・通勤者を除いた人に対して、「自転車への代替可能性」を聞いたところ、通学・通勤の距離が4km までなら「今も自転車で行っている」人、「気軽に行ける」と思う人が多い状況です。
- ただし、世帯での移動は自家用車からの転換は期待しにくい状況です。

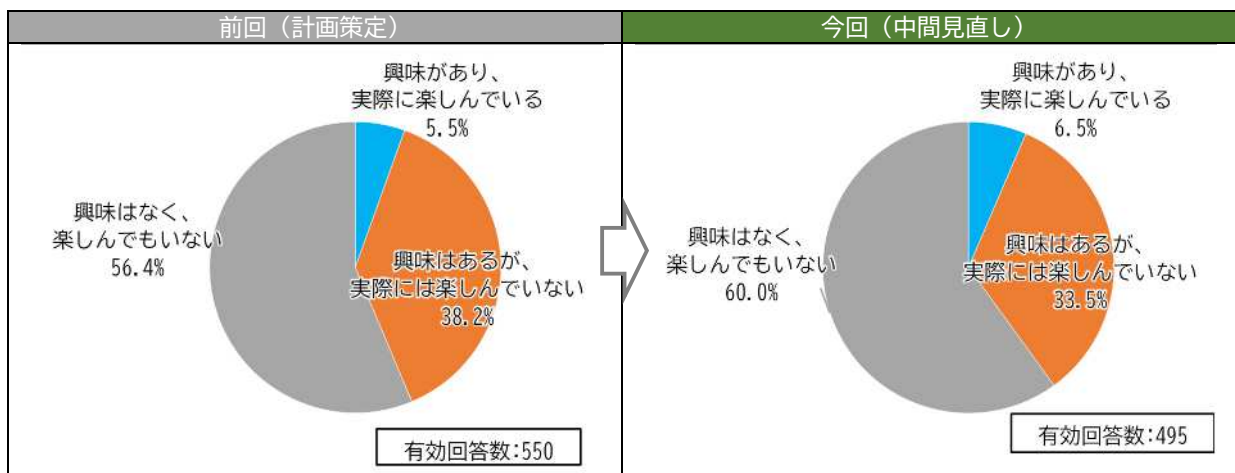
■通勤・通学目的での自転車による手段の代替可能性



③健康づくりや余暇への自転車利用の潜在的な需要は4 割程度ある状況

- 健康づくり、余暇の自転車利用に対する興味の状況について、前回調査では「興味があり、実際に楽しんでいる」層の占める割合は5.5%ですが、今回調査では6.5%と微増しています。
- 「興味はあるが、実際には楽しんでいない」人は、きっかけがあれば自転車利用が期待できます。前回調査では38.2%で、今回調査では33.5%と減少しています。

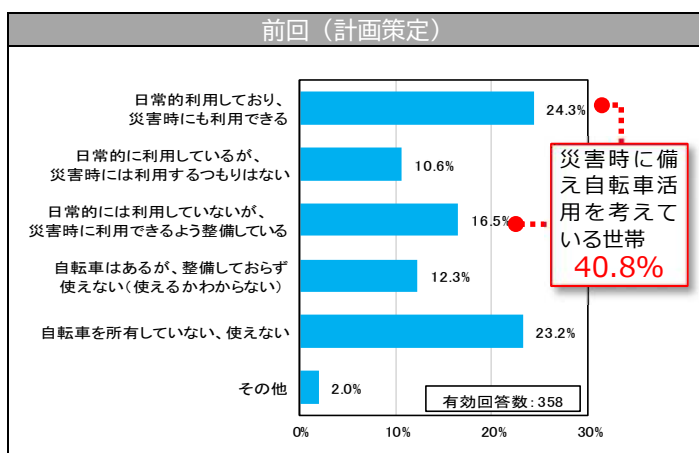
■健康づくりや余暇への自転車利用の実施状況や興味



④災害時の自転車活用を意識している世帯は4割程度ある状況

- 「災害時にも利用できる」、「災害時に利用できるよう整備している」層は約4割あり、災害時の利用を考えている世帯もあります。
- 「日常的に利用しているが、災害時には利用するつもりはない」層もあり、災害時の活用の意識づけを進めることが重要です。

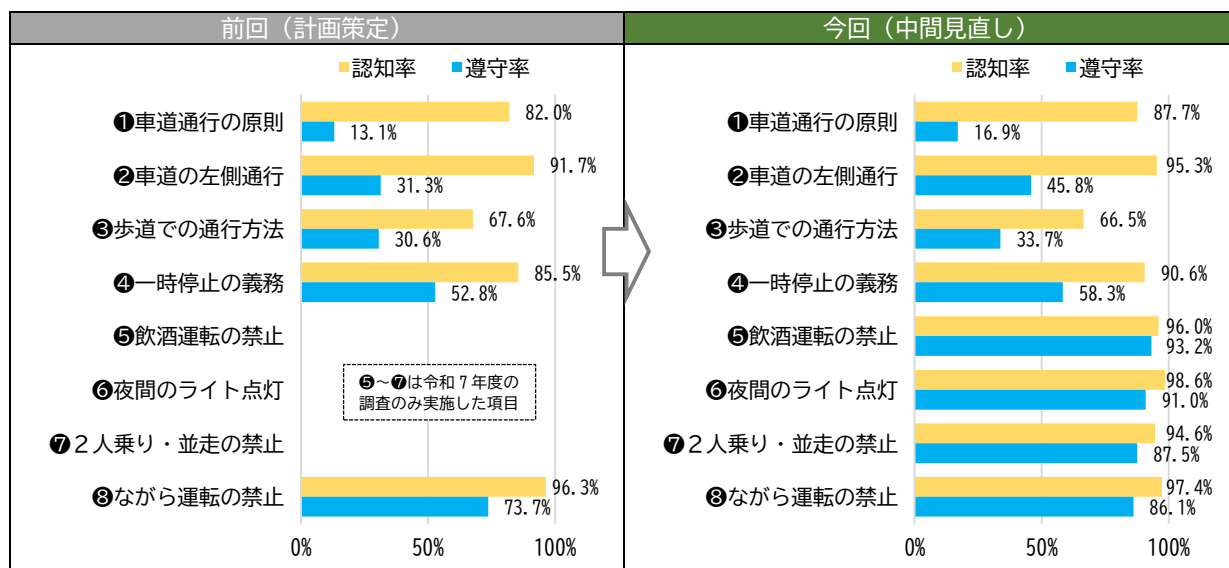
■世帯としての防災対策での自転車活用の意向について



⑤自転車の交通ルールを「知って」いても、遵守率は低い状況

- 道路交通法に示された自転車交通ルールは、前回調査、今回調査ともに8～9割が「知っている」ものの、まだ遵守率は低い状況にあります。
- 前回調査と比較すると、認知率、遵守率ともに、前回調査よりそれぞれ3～5ポイント程度高くなっております。
- 家庭での自転車安全教育があまり行われていない状況の中で、引き続き「守ってもらう」ことの重要性を伝えることが大切です。

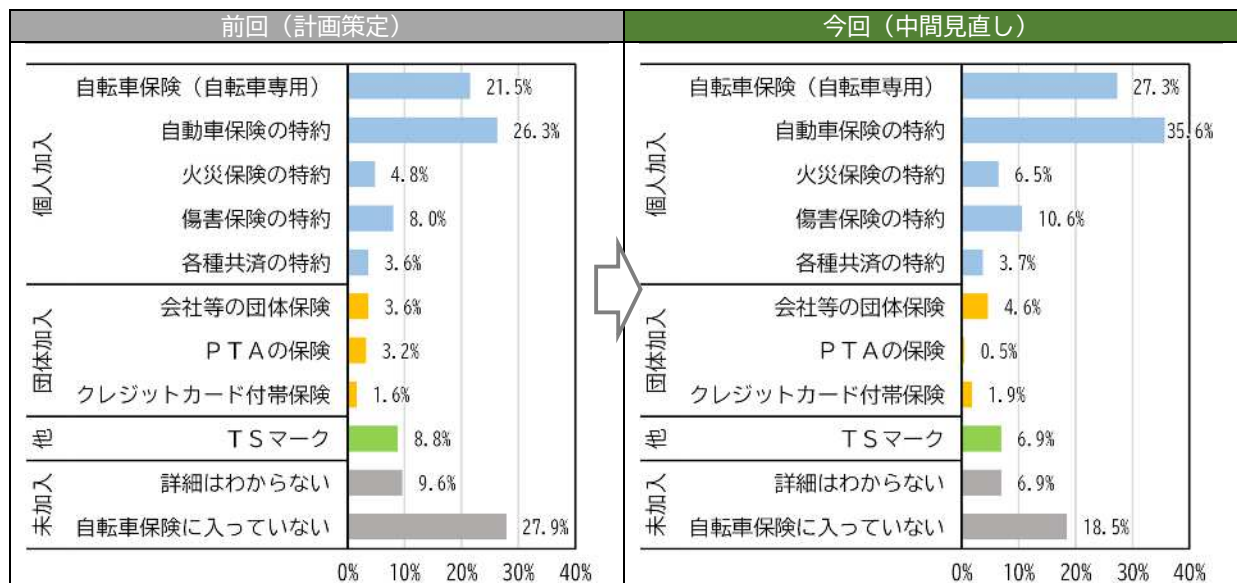
■自転車の交通ルールの認知率（知っているか）と遵守率（守っているか）



⑥自転車損害賠償保険の加入世帯は8割以上の状況

- 自転車を1台以上保有する世帯での「自転車保険の加入状況」では、どの保険にも「入っていない」世帯は前回調査では27.9%、今回調査では18.5%となっています。
- 本市では令和元年10月1日より自転車保険の加入を義務化していますが、義務化前の6月に調査した市民意識調査では、自転車を利用している個人単位では「入っていない」人は40%でした。

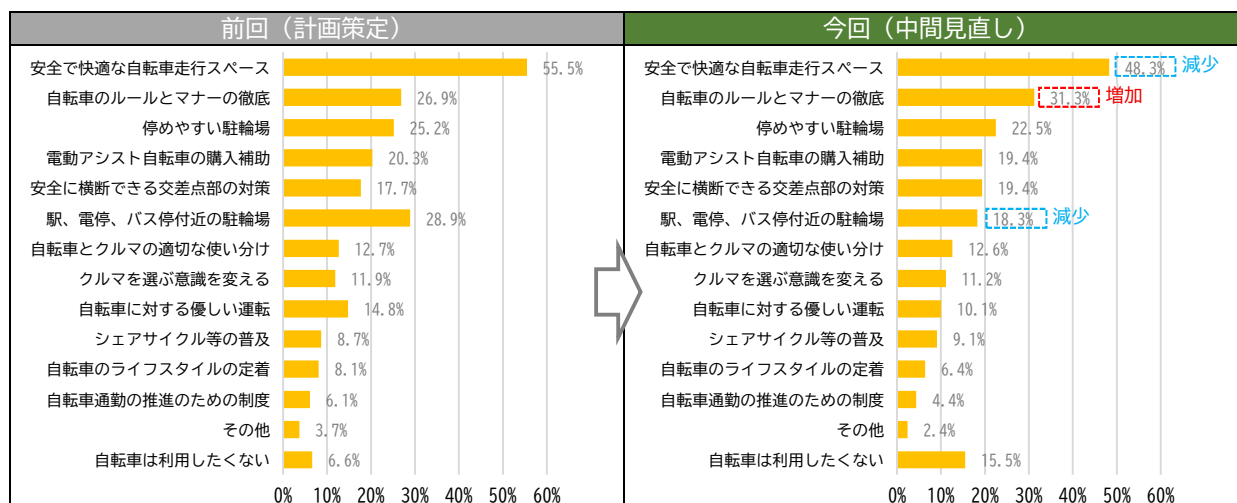
■世帯単位での自転車保険の加入状況（自転車を保有する世帯のみ）



⑦通行空間、駐輪環境、安全教育のさらなる推進に期待

- 自転車活用を推進する視点では、「安全で快適な自転車走行スペース」や「自転車のルールとマナーの徹底」、「止めやすい駐輪場の確保」が期待されています。
- 前回調査と比較すると、「自転車のルールとマナーの徹底」が前回に比べて増えた一方、「安全で快適な自転車走行スペース」や「駅・電停・バス停付近の駐輪場」は大幅に減少しています。

■自転車利用を増やすために必要なこと



⑧自転車での「おすすめスポット」を意識していない状況

- 市内の自転車で行くことをお勧めしたいスポットとしては、現状では9割以上が「ない」としており、市内の資源が評価されていない状況です。
- のんほいパーク、豊橋美術館など、観光資源や公園などの身近なレクリエーション施設などが具体的にあげられており、自転車でのおすすめスポットを知ってもらうことが、余暇の活用にもつながります。

■自転車で行くことをお勧めしたい場所

